



迎春 2010

皆様に 新春のご挨拶を申し上げます。

後藤正史
主任司祭

主キリストのご降誕と新年、あわただしくもわくわくする季節です。この前、21世紀に入

ったと思ったら、もう10年目です。それぞれの2010年、いと大いなる方の霊の導きと照らしと励ましの中で、それぞれに託された招きに答える一年となりますように。あの方がいつも共におられることを心に留めながら。



アルベルト
協力司祭

新年の御よろこびを申し上げます。皆さん、昨年はお祈りいた

だいてありがとうございました。父は自分が毎晩唱えた祈りを数年前 私に書いてくれました。この祈りを皆さんと分かち合いたいと思います。「夜を守り、やみのあとに光を輝かせてくださる神よ、この夕べを平和のうちに過ごさせてください。朝日がのぼる時、あなたの前で感謝の祈りをささげることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」
神よ、新年を平和のうちに過ごさせてください。今年も神様の豊かな祝福が皆さんの上にありますように。

小野島照子
シスター

「明けましておめでとうございます。」この言葉こそ、多くの人が苦し

んでいる現代世界において、新しい未来を信じる者の信仰告白ではないでしょうか。

すべてを弱者から奪い、強者がはびこり続ける社会で、神は弱い人々の中には不在に見えます。しかし、どん底にもかかわらず、神を賛美する人々がその中に存在しているのです。この存在は、まさに神の現存を示しているのではないのでしょうか。迫害の中にいる人々に向けて、獄中の使徒パウロは、「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。...主はすぐ近くにおられます。」(フィリピ4・4・5)と神の言葉を伝えます。

私達一人一人の中であって、どのような状況にいても、主が、私達の存在そのものを喜び楽しみ、主の愛によって新たにしてくださるのですから、今年こそ、あるがままに主の前に出ましょう。私達の存在そのものが、主を喜ばせるのです。どんな状況にあっても、日々神の愛によって新たにされる者として、喜びを証しできる年に成りますように！もう一度、主において告白します。「明けましておめでとうございます！今年もよろしくお祈りします。」

ゆ〜っくり、じ〜っくり 語り合った新たな試み

教会の合宿で
15人が熱心に…

主催者から

幹事長

12月5日と6日の1泊2日の日程で「第1回養成合宿」を開催しました。主日ミサ後の立ち話や運営委員会等の会議で

は時間的な制約もあり、なかなか伝えることのできない幟町教会への思いや意見をじっくりと語り合うことができると8月の幹事会で発案されたものを4か月越しで実行したもので、寒さも厳しさを増した師走の夜、15人の老若男女がマリアホールに集合して「幟町教会の現状と将来像」をテーマに熱く語り合いました。

自由討議では、広島教区のセンターであり、広島地区のセンターであり、かつ、カテドラルであるという3つの顔を持つが故に抱える様々な課題が浮き彫りになりました。即ち、他の教会では類を見ない、多くの行事と来場者・信徒の数。これに伴う仕事の多さとゆとりのなさ。働き手の少なさと特定の人に集中してしまう仕事。メガ(大規模)教会であるために生じる人間関係の希薄さ、コミュニケーション不足等でした。

これらの課題解決に向けての論議やわかちあいは時間の経過とともに熱を帯び、コミュニケーション不足改善のために、まず



は、集まれて・知り合えて・話せる場所を提供するためマリアホールを主日ミサ後に開放することや、誰にでも(特に初めて幟町教会に来た人には)ニッコリ笑って、お早うございますと挨拶を実践すること、各係の活動をミサ中のお知らせ等で紹介して働き手を募ること、マンパワーの再集結により男性もマリア会を目指して活動することなどが次々と提案され、夕食をはさんだ初日の話は終了時刻の夜10時を回っても尽きることがありませんでした。

一晩明けた日曜の朝には、御ミサの直前まで話し合い、皆の思い、喜びや悩み、悲しみ等人生経験の一端までもわかちあうことができました。幟町教会の将来像を語り合うことを目的に行った合宿でしたが、様々な気づきを与えてくれたものになりました。次の機会には、より多くの人に参加していただき、我らの幟町教会をより熱く語り合えればと思っています。

参加者から
信徒(西ブロック)

養成合宿に 参加して

「幟町教会の現状と将来像を語る」をテーマとした養成合宿が今回初めて行われ。12月5、6日に、主の兄弟と共に参加しました。参加は15名。なんと予想外の参加者の多さでした。

運営委員会の方々が後藤神父様と相談して必要性を感じ企画されたようでした。予定表に沿って夕方16時開始、30分の講話その後、幟町教会の現状について、理想と現実のギャップその他の問題点等、討論討議がなされました。

その後、各グループに別れて問題点解決の方法論議を約一時間。その後休憩と夕食と着々とスケジュールに従って進められた様子でした。私は夕食を済ませ20時から始まった分かち合いの時間から参加させて頂きました。最初はマリアホールで行われていたのですが、カトリック会館食堂に会場を移しリラックスした雰囲気の中で各自が普段感じている問題点など屈託なく後藤神父様を交え話し合いました。その夜は11時過ぎての解散でした。

日曜日はミサの少し前に参加しましたが、泊まりの方々は朝八時から九時迄で、予定通りのうちに閉会となりました。

個人の感想として、なんと！神父様をはじめとして各運営委員会の方々は、真面目に幟町教会のことを考えて取り組んでおられる姿勢が伝わってきました。個人的には、日頃から兄弟と話し合っているのですが、

大切にすべきは先ず方法論「いかにうまくやるか？」ではなく「如何にありたいか！」を、しっかりと共有し合ってから合宿にすべきでないか？との思いが有りましたのでその点は、気がかりでした。

確かに我々のカトリック信仰にはルカ福音書一章におけるマリアさまの天使ガブリエルの受胎告知のシーン「本当に私は主のはしためです。どうぞあなたのお言葉通り、この身になりますように」との見事にまで神様に従順を表明されたマリア様の信仰宣言とも受け止めるべき、まさに範とすべきお方の信仰が今も脈々と受け継がれていると思います。その良き伝統を我々は堅持して行きたいのは異論の無いところでしょう。しかし一方で箴言29-18「幻がなければ、民は欲しいままにふるまう」この、幻(希望)やビジョン無き民族は滅ぶ！のように『夢や希望』が私たちの生きる原動力になると思うのです。

ヘブライ人の手紙11-11には「信仰は望んでいる事柄を保証し目に見えないものを確信させるからです」とあります。

またヨハネ福音書14-13「またわたしはあなたがたが私の名によって求めることは何でもそれをしましよ。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたがわたしの名によって何かを私に求めるなら、わたしはそれをしましよ」

みことばを受け、教会に社会に家庭に力ある神様の証し人として恐れ敬い日々を感謝しながら主の栄光を賛美する者になりたいと思います。



夜更けまで語り合う参加者

《お知らせ》

《図書コーナー開設のお知らせ》

12月22日から、マリアホールの一角に
図書コーナーを開きました。

日時：原則として

火・木曜日 / 10:00～16:00

日曜日/行事が入らない限り

9時半ミサ後～12:00

本の貸出期間：2週間

貸出しノートに記入の上、ご利用く
ださい。

今後、信徒間のコミュニケーションの
「場」として、日曜日9時半ミサ後、マリ
アホールを午前中に開放します。

(行事や活動グループの使用を優先します。)

編集後記



あけましておめでとうございます。旧年中はご協力ありがとうございました。今年もよろしくお
願いします。さて、聖書には「新」という言葉がたくさん出てきます。「新しい革袋」「新たに生まれる」「新しい人を身に着ける」「日々新たにされる」などなど。新しい年、新たな気持ちで聖書を開きませんか。新たな気づき・メッセージがあるかもしれません。(お)

